



4年度 一般会計補正予算案を可決

4年度の一般会計補正予算案（第12号・第13号）をそれぞれ可決しました。主な事業は次のとおりです。累計額は576億4千万円となります。

☆第12号〈全員賛成〉

●道路等除排雪費

〔3億5000万円〕

幹線道路・生活道路等の除排雪費増額

☆第13号

●賛成19・反対5 青山ゆたかは賛成

●大型公共施設整備事業

〔2億7344万円〕

国の交付金を活用し、体育館建設の一部を前倒しで実施

●児童福祉総務費

〔110万円〕

指定寄付により県南愛児園に卒園児進学資金を扶助

●保育対策総合支援事業

〔332万円〕

保育所等送迎バスの園児置き去り防止対策

●担い手確保・経営強化支援事業

〔7559万円〕

●農業用機械等導入を支援

〔401万円〕

低コスト化に必要な農業機械・設備の導入を支援

3月定例会を終えて

高橋大市長の悲願ともいえるべき大型公共施設の建設が事実上決まりました。議会と市当局の議論は国からの

の有利な財源に頼るため、かなりタイトなスケジュールの中でせざるを得ない状況となりました。総額190億円以上に膨れ上がった事業費により、今後の市財政はより厳しさを増す恐れがあります。体育館や市民会館が横手市の維持、発展の重要なツールとするならば、実効性ある運営計画を作成し、官民一体で責任感ある取り組みを行わなければなりません。少子化対策は、医療費無償化を高校生まで拡大するなどの子育て支援策が当初予算に盛り込まれました。一定の評価をする一方、国からの支

援を待つ姿勢（答弁）も目立ち、危機感のギャップを感じます。高齢者福祉政策の見直しは、事前に厚生常任委員会協議会等での侃々諤々の議論を経てのものです。真に高齢者に喜ばれる適切な事業執行を期待します。

一般会計当初予算の修正可決は、議会が単なる追認機関ではないことを示すものとなりました。市当局と緊張感のある関係を保ちながら、お互いに切磋琢磨し市民福祉向上に努めていきたいと思えます。



※1月27日に臨時会が開催され、道路等除排雪費等を盛り込んだ4年度一般会計補正予算案（第11号）を全員賛成で可決しました。

副市長

石山清和氏が退任、後任に村田清和氏



▲村田清和氏

石山清和氏
副市長の
退任に伴

任期満了による
に副市長に就任。2期8年
にわたり、高橋大市長の右
腕的存在として市政を支え
ました。

い、後任に村田清和・総務企画部長（当時）を充てる人事案が最終日の3月17日に上程され、これに同意しました。石山氏は健康福祉部長、財務部長、総務企画部長な

村田氏は専修大卒。平成9年に旧横手市役所入り。主に企画畑を歩まれ、総合政策部経営企画課長、総合政策部長などを歴任、庁内の政策調整全般において存在感を発揮されました。